

# 久留米城の復元CGを制作

市が久工大・成田准教授に依頼

## 古写真や絵図踏まえ9月に完成



制作途中の本丸御殿の復元CG（成田聖准教授提供）

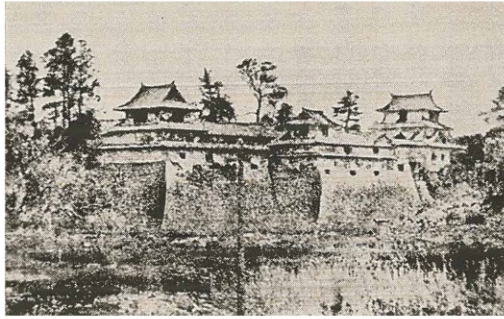
久留米市が久留米城跡（県指定史跡）の復元コンピュータグラフィックス（CG）を制作している。市から依頼を受けた久留米工業大の成田聖准教授

（建築史学）がわずかに残る古写真や古絵図を踏まえ、城内にあった本丸御殿や櫓群の往時の姿をよみがえらせる。CG画像を使ったプロモーション動画も

制作し、9月に完成する予定という。久留米城は16世紀に築かれた。1621（元和7）年に初代の有馬豊氏が入城して以降、歴代藩主が城を整備し、1871（明治4）年に廃城となった。昨年は有馬氏の入城から400年



成田聖准教授



明治初期に撮影された久留米城（久留米市史第2巻から）

の節目。市は本年度も関連事業予算を計上し、城のPRに力を入れる。

成田准教授は歴史的建造物を研究し、デジタル技術を使ってその再現に取り組んでいる。久留米城についても江戸期や明治期の絵図や写真を基に、建物の構造を分析。建築上、矛盾のない姿で復元を試みる。

古写真の分析で興味深い知見も得られた。その一つは、中央にある2本の木の間に線がある。成田准教授は枝以外に、藩主が政務を行った本丸御殿の屋根である可能性を指摘する。画像が不鮮明なため断定は難しい

が、御殿の高さを知る手がかりになりそうだ。

御殿を囲む櫓群にある陰影にも着目する。開口部とみられるが、その位置は足元で低い。成田准教授は大砲を置く「大砲狭間」を想定する。また、中腰や伏せて射撃するためのなか、2階部分の天井も低い。成田准教授は「戦闘を意識して築かれた攻撃的な城という印象がある」と語る。

疑問点を考証しながら復元CGを制作中で、8月中旬に完成予定。成田准教授は「市民が久留米城に興味を持つきっかけにしたい」と話し、CG画像を使った

PR動画も作るという。市文化財保護課によると、CG画像は久留米高専にも提供され、高専の学生は若い感性でPR動画を制作。市はホームページなどで動画を公開し、プロモーション活動に役立てる。

（野村大輔）